

定例公安委員会開催概要

1 開催日

令和6(2024)年11月6日

2 開催内容

次の議題について、警察本部から説明・報告がなされ、決裁等が行われた。

■全体会議

【公安委員会から】

冒頭、委員から、

「先日、県議会9月定例会が終了したが、県議会における質問は、県民の関心事を知ることができる機会と考えられる。県民の関心や不安の解消に応えられるよう、今後も十分に理解が得られる答弁の準備をお願いしたい。」

旨の発言があった。

【警務部議題】

○ 令和6年県議会9月定例会の開催状況について

警察本部から、「県議会9月定例会の開催状況について報告する。会期は、9月25日から10月25日までの31日間で行われ、警察本部関係の議案等は、議案2件及び報告1件であった。代表質問及び一般質問は10月2日から3日間行われ、警察本部に対しては、一般質問で希望いわて、盛岡選挙区の小西和子（こにしかずこ）議員から、被害者等支援について質問がなされ、本部長が答弁している。10月8日に行われた総務委員会において、令和6年度岩手県一般会計補正予算（第4号）、損害賠償請求事件に係る和解及びこれに伴う損害賠償の額を定めることに関し議決を求めることについて審査が行われ、原案どおり可とされた。また、この際質問として、警察本部関係の質問が3件あり、①いわて新政会、一関選挙区の佐々木朋和委員のパワハラ事案の損害賠償（求償）に対し首席監察官が、②自由民主党、紫波選挙区の村上秀紀委員の警察と児童相談所との連携に対し参事官兼人身安全少年課長が、③希望いわて、一関選挙区の岩淵信委員の国政選挙における警備方針に対し、警備課長がそれぞれ答弁対応を行った。10月16日に開催された決算特別委員会警察本部審査では、5名の委員から質疑がなされ、本部長及び各部長等が答弁を行っている。主な質疑・答弁については、希望いわて、盛岡選挙区の小西和子（こにしかずこ）委員から、男性職員の育児休業等の取得について質疑がなされ、警務部長及び本部長が、自由民主党、盛岡選挙区の鈴木あきこ委員から、特殊詐欺の現状、SNS型投資・ロマンス詐欺の状況、犯罪少年の再犯（者）率、少年の犯罪被害防止について質疑がなされ、いずれも生活安全部長が、希望いわて、奥州選挙区の郷右近浩（ごうこんひろし）委員からは、改正道路交通法施行令について質疑がなされ、交通部長が、希望いわて、盛岡選挙区の上原康樹（うえはらやすき）委員からは、外国人犯罪への対応について質疑がなされ、刑事部長及び生

活安全部長が、日本共産党、盛岡選挙区の斉藤信（さいとうしん）委員からは、上司のパワハラ暴行による自死事件について質疑があり、首席監察官、警務部長及び本部長が、県知事・県議会議員等選挙違反事件についての質疑には刑事部長がそれぞれ答弁した。」旨の報告があった。

【刑事部議題】

○ 刑法犯認知・検挙状況について（令和6年9月末暫定値）

警察本部から、「刑法犯総数については、認知件数・検挙件数・検挙人員は、全国・管区及び本県とも全て増加しており、検挙率は、全国・本県は増加、管区は減少している。重要犯罪は、1月から9月までの認知件数は92件（前年比+39件）、検挙件数は77件（前年比+33件）、検挙率は83.7%（前年比+0.7ポイント）検挙人員は65人（前年比+29人）であり、全ての数値が前年より増加している。このうち、7月～9月の認知件数は29件（前年比+2件）、検挙件数は28件（前年比+17件）、検挙率は96.6%（前年比+55.9ポイント）、検挙人員は26人（前年比+19人）であり、こちらも全ての数値が前年より増加している。本県の重要窃盗犯は、1月から9月までの認知件数は280件（前年比+107件）、検挙件数は168件（前年比+52件）、検挙率は60.0%（前年比-7.1ポイント）、検挙人員は38人（前年比-5人）であり、認知件数、検挙件数は前年より増加し、検挙率、検挙人員は減少している。このうち、7～9月中の認知件数は105件（前年比+38件）、検挙件数は90件（前年比+59件）、検挙率は85.7%（前年比+39.4ポイント）、検挙人員は20人（前年比+9人）であり、全ての数値が増加している。本県の特殊詐欺については、1月から9月までの数値は、認知件数、検挙件数が前年より増加している。このうち、7～9月中の認知件数は12件（前年比+6件）、検挙件数は1件（前年比±0件）、検挙率は8.3%（前年比-8.4ポイント）、検挙人員は0人（前年比±0人）、である。「住宅対象侵入窃盗」については、認知件数、検挙件数、検挙率が前年より増加し、検挙人員は減少しており、このうち、7～9月中の認知件数は12件（前年比-3件）、検挙件数は6件（前年比-3件）、検挙率は50.0%（前年比-10.0ポイント）、検挙人員は3人（前年比-1人）であり、全ての数値が減少している。7～9月末の状況は、以上のとおりであるが、未検挙事件について、鋭意、捜査を継続するとともに、事案の発生時においては、早期検挙に向けた迅速・的確な初動捜査を実施していきたい。」旨の報告があった。

【警備部議題】

○ 令和6年度岩手県総合防災訓練への参加について

警察本部から、「本年度の岩手県総合防災訓練は、東日本大震災津波、平成28年台風第10号災害、令和元年台風第19号災害等の大規模災害の教訓を生かし、「自助」、「共助」、「公助」の災害対応の総合力の強化を図ることを目的として実施する。訓練は11月10日、遠野、花巻の両市において、遠野市運動公園をメイン会場に開催する。県、遠野市及び花巻市が主催し、警察、自衛隊、消防、海上保安庁など関係68機関が参加する。訓練想定は、数日前からの降雨により、河川の水位が上昇し、一部の地域で地盤が緩んでいたところ、1時間に80ミリ以上の猛烈な雨が降り、土砂災害や浸水害が発生するなど死傷者が出ているほか、住民避難や応急対策が必要となったものである。警察参加の訓練については、本部警

備課、機動隊は、土砂災害現場において、消防、自衛隊等の関係機関と連携した「救出救助訓練」を実施する。機動隊は、石川県能登半島地震の教訓を踏まえまして、道路が寸断され四輪車等で地上から進入できない孤立地区に防災ヘリ「ひめかみ」で現地入りし、取り残された住民を救出する訓練を実施する。交通機動隊は、道路が寸断され四輪車が進入できない孤立地域にオフロードバイクを使用して情報収集、搜索等を実施する「地上偵察訓練」を実施する。遠野署は、救助され処置を受けた傷病者の搬送を行う「多数傷病者トリアージ・搬送訓練」を実施するほか、災害現場へ向かう道路上に放置され交通障害となっている「車両の排除訓練」や、関係機関と連携した「避難所内の安全パトロール訓練」を実施する。捜査一課は、遺体収容所の初期設営、遺体搬入、検視身元確認、行方不明者の相談受理、遺体の引き渡しを行う遺体対応訓練を実施する。花巻署は、自治体窓口開設に合わせた警察窓口設置運営訓練を行い、遺失・拾得業務、警察安全相談等の対応を実施する。」旨の報告があった。

○ 東北管区広域緊急援助隊合同訓練への参加について

警察本部から、「広域緊急援助隊の合同訓練は、平成8年から各県の持ち回りで開催しているもので、本年は11月11、12日の2日間、秋田県の陸上自衛隊新屋演習場等で開催される。訓練目的は、大規模災害発生時に迅速かつ的確な救出救助活動を行うため、広域緊急援助隊の災害対処能力の向上を図るとともに、防災関係機関との緊密な連携を図ることである。参加部隊は、東北6県の広域緊急援助隊、機動警察通信隊のほか、秋田県内の消防、自衛隊、医療機関等となる。本県からは、警備、交通、刑事、通信隊の合計30名が参加する。訓練想定は、複数の線状降水帯が発生し、秋田市内で内水氾濫による浸水被害が発生し、さらに秋田県沿岸を震源とする最大震度7の直下型地震が発生して建物倒壊、土砂災害、液状化、地盤沈下により人的、物的ともに甚大な被害が発生したものである。主な訓練内容は、警備部隊は、関係機関と連携し、土砂崩れに巻き込まれた家屋、車両からの救出救助活動等を実施する。交通部隊は、オフロードバイクによる悪路走行を実施するほか、放置車両の移動、交通規制等を実施する。刑事部隊は、多数遺体取扱訓練として検視、身元確認、遺族対策等を実施する。」旨の報告があった。

【警察学校】

○ 初任科第99期長期課程学生の東日本大震災被災地研修について

警察本部から、「10月30日に実施した初任科長期学生に対する、東日本大震災被災地研修について説明する。研修場所は、大槌町及び陸前高田市の震災関連場所等で実施した。大槌町では、県立大槌高等学校において、副校長から被災時の状況等について体験談等を聞いた。震災当時も大槌高校の教諭をしており、実際に目撃した津波の状況や高校が避難所となり、その対応で経験したこと通じて求められる警察官の姿について教養を受けた。陸前高田市広田町の野外活動センターでは、広田町出身の学生2名が体験を通じた教養を行い、その後、広田湾防波堤において黙祷を捧げた。また、車椅子利用者や視覚障害者等の災害時要擁護者に対する避難誘導・補助訓練を行い、避難活動の難しさを体験した。津波伝承館では、展示資料等の見学等を通じて、甚大な被害の現実と命を守るための教訓を学んだ。今回の研修参加学生43

名のうち、沿岸部出身者は8名で35名は県内又は県外の内陸出身であるほか、震災当時は小学校入学前であった学生が多く、当時の状況が分からない学生が多数を占めている。本研修により、震災の記録や教訓等の伝承教養を行いながら、復興状況等を確認することができ、警察官としての誇りと使命感の醸成を図ることができた。」旨の報告があった。

《 委員発言 》

「自分の身を守ってこそ、県民の命を守ることができることについてもしっかりと教養していただきたい。」

→本部発言

「発災当時、沿岸部で勤務していた副校長からも同様の趣旨の話があり、本研修においては、その点についても教養を実施した。」

■個別会議

○ 監察課

慰霊祭における公安委員長の対応についての説明、決裁
損害賠償事案に係る求償権の行使についての説明、決裁
監察課業務報告

○ 県民課

犯罪被害者等給付金支給裁定申請の裁定についての説明、決裁

○ 運転免許課

免許取消等処分関係に係る意見の聴取結果等の説明、決裁